

家庭夜間血圧測定タイミングについて：手首夜間血圧研究（WISDOM-HMOD）ベースラインデータを用いた検討

富谷 奈穂子

自治医科大学 内科学講座循環器内科学部門

【目的】 測定時のカフの圧迫や測定音が低減された、最新の手首式夜間家庭血圧計（HEM-9601T：オムロンヘルスケア）を用いた手首夜間血圧研究（WISDOM-HMOD）のベースライン夜間血圧データを使用して、家庭夜間血圧の測定タイミングについて検討した。

【方法】 WISDOM-HMOD研究では、高血圧または心不全患者に手首式血圧計を貸与し、家庭で7日間夜間血圧測定を実施した。被験者自身が就寝直前に夜間測定設定をすることで、2:00、3:00、4:00、就寝から4時間後の4ポイントでタイマー測定される。7晩の測定（計28測定/人）について、固定時刻に測定された夜間血圧と経過時間（4時間後）によって測定された夜間血圧を比較した。

【成績】 1158名（平均67.5 ± 11.9歳、男性54.2%）から平均6.5晩の測定で、28217測定の夜間血圧が得られた。2:00、3:00、4:00、4時間後の4ポイント平均SBPと2:00、3:00、4:00の固定時刻測定平均SBPには有意な差が示された（110.4 ± 12.9 mmHg vs. 110.8 ± 13.2 mmHg, $p < 0.001$ ）。夜間測定最低値は2:00の測定で多くみられ（32.5%）、最高値を示した割合は4:00の測定で高かった（31.8%）。

4時間後測定が最低値となった割合、最高値となった割合はそれぞれ20%程度であった。また、4時間後測定のうち約40%はそれぞれ20%程度であった。また、4時間後測定のうち約40%は2:00-4:00の測定時間とは重ならない時間帯で測定されていた。

【結論】 固定時刻測定に加えて経過時間測定を組み合わせることは、より多様な生活習慣・睡眠習慣にも対応した夜間血圧測定方法である。